



「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』の拠点採択決定 科学技術イノベーション政策に関する新たな人材の育成をスタート

概要

九州大学は、このたび、文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』推進事業」に応募し、「基盤的研究・人材育成拠点（領域開拓拠点）」の一つに採択されました。

本学は、応募にあたり、東アジアと地域イノベーションを領域の軸とし、専門領域と政策のための科学をつなぐ人材の育成等を提案し、これが評価されたものです。

これに伴い、平成24年4月には「東アジア地域STI政策教育研究センター」（仮称）を設置し、平成25年度から、大学院の共通教育として「STI政策科学専修コース」を開講します。

将来的には、これを発展させ、大学院統合新領域学府「STI政策科学専攻」の開設を予定しています。

これにより、九州大学は、我が国における多方面の政策分野で、科学的な根拠をもって政策立案を進めていく人材の育成を目指します。

■背景

文部科学省は、昨年8月に「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』推進事業の一環として「基盤的研究・人材育成拠点」の公募を開始しました。

これは、客観的根拠（エビデンス）に基づく政策形成や民間企業における中長期的な経営・技術戦略の策定等を担う専門家、「科学技術イノベーション政策のための科学」という新たな研究領域の発展の担い手となる研究者、さらに「科学技術イノベーション政策のための科学」と自然科学・人文社会科学等の各専門領域をつなぐ人材の育成を目的とした総合拠点と領域開拓拠点を選定し、重点的に支援を行うことで、人材育成のための拠点の構築を目指そうとするものです。

九州大学は、領域開拓拠点に応募し、平成24年1月11日付けで採択されました。

今回、総合拠点には、政策研究大学院大学が、領域開拓拠点には、本学以外に、東京大学、一橋大学、大阪大学(京都大学)が選出されました。

文部科学省からは、原則15年に亘る財政的な支援（毎年度5千万円）を受け、領域開拓拠点として他の拠点と連携し、政策のための科学に関する基盤的研究と人材養成を進めます。

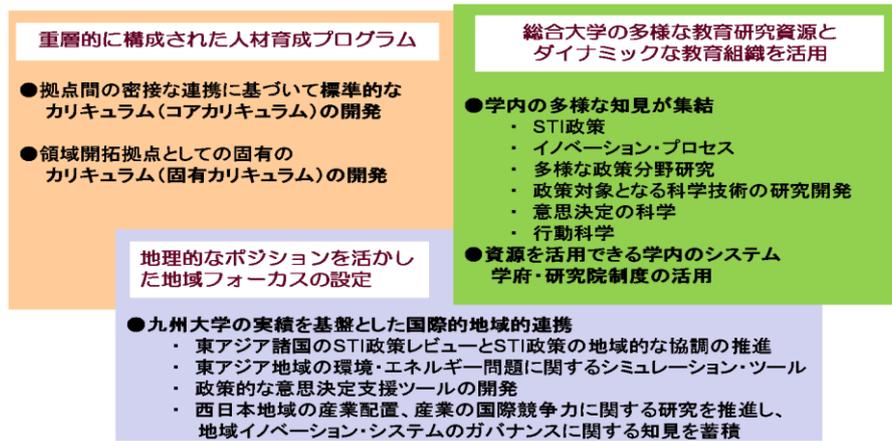
■内容

九州大学には、既にSTI政策、イノベーション・プロセス、多様な政策分野の研究、政策対象となる科学技術の研究開発、意思決定の科学及び行動科学等を専門分野とする教員が集積しており、教員の組織を柔軟に編制することのできる学府・研究院制度があります。

また、我が国を代表する拠点大学の一つとしてアジアを中心にグローバルな教育研究を展開するとともに、地域の基幹大学としての様々な貢献を行っています。

これらの強みを持つ九州大学としては、今回、文部科学省に対して、拠点間の密接な連携に基づいて構築する標準的なカリキュラム（コアカリキュラム）と本学独自のカリキュラム（固有カリキュラム）の開発とともに、国際的・地域的連携に基づく拠点形成を提案しました。

(提案のイメージ)



■効果

現在、経済・社会を取り巻く状況や構造が大きく変化しているなかで、その変化に適切に対応しながら、社会的問題を解決していくため、科学技術イノベーションへの期待が高まっています。

また、社会的問題の解決を目指し、限られた資源をより効率的に活用しつつ科学技術イノベーションを展開するためには、経済・社会等の状況、社会における課題と、その解決に必要な科学技術の現状と可能性等を多面的な視点から把握・分析する必要があります。その上で、客観的根拠（エビデンス）に基づき、合理的なプロセスにより政策を形成することが求められています。

さらに、平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、人的・物的に甚大な被害をもたらし、自然災害に対する取り組みの強化による安全・安心な社会の実現や、エネルギーの安定供給や再生可能エネルギーの普及などに向けた政策の見直しが求められています。（参考：科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基本構想 文部科学省 政策科学推進室）

九州大学は、このような社会的な課題に対して、基盤的研究と人材養成を通して貢献するとともに、「政策のための科学」という新たな学問分野の確立を目指します。

■今後の展開

平成24年4月には、「東アジア地域STI政策教育研究センター」（仮称）を設置、平成25年度から大学院共通教育「STI政策科学専修コース」を開設します。また、平成27年度からは、大学院統合新領域学府「STI政策科学専攻」を開設する予定です。

（STI政策科学専修コースの担当者の例）



【お問い合わせ】

学務部学務企画課長 江島定人

電話：092-642-7072

Mail：gapkacho@jimu.kyushu-u.ac.jp